

# 南琉球宮古語伊良部島方言における 再帰代名詞を用いた「物語の 1 人称」用法

---

下地理則（九州大学）

smz@kyudai.jp

# Goals

## 本発表の目的

- 再帰代名詞 nara 「自分」を使った物語の 1 人称用法の報告
- 一般言語学的な位置付けと研究の意義（ロゴフォリシティの観点から）

(1) [agaii vvaga ukagidu **naraa** mmja naunmai narada kai  
ああ あんたの おかげで REFL は もう 何にも ならず こう  
ninginnasii uiba, arigatoo, zinnumai mmja turadjaan] ti ukkaumai  
人間としている ありがとう お金も もう 取るまい と 借金も  
turattarca.  
取らなかったんだとさ

「ああ、あなたのおかげで**俺はどうもならず**、このように人間のままでいられるよ。ありがとう！お金はもう取らないよ」と借金を取らなかつたんだとさ。」

琉球諸語の先行研究で「物語の 1 人称用法」は指摘されたことがない。よって、本発表ではこの用法に関する何らかの仮説の検証というより、この用法自体の先行報告という形をとる。

物語の 1 人称用法とは何か

## 普通の再帰構文

- (2) tamamigaa junusitudu **naraga** jaan asibiar.  
タマミガは<sub>i</sub> ユヌスと<sub>j</sub> **自分の<sub>i/\*j</sub>** 家で遊んでる

- 宮古語の多くの方言では duu と nara の 2 系列あり、nara は 3 人称主語と照応する再帰代名詞（王 2021）
- 先行詞（すなわち主語）があり、非主語位置に再帰代名詞がくる例がこれまでの主要な記述対象

# 物語の1人称用法とは何か

## 物語の1人称用法

- (3) [naraa ikii kariuba sugu nnama ikijja kurusiidu fii] tti  
俺は 行って あいつを もう 今 行って 殺して こようと  
katana juujiasii mjaakunkai partarca.  
刀 用意して 宮古へ 行ったとさ  
「俺は行ってあいつ（借金を返さない男）を、すぐに行って殺していくぞ」と、刀を用意して宮古に行ったんだとさ。（「借金取りの話」）

- 必ず引用節内に出てくる
- 典型的に nara 自体が主語位置に生起
- 先行詞がない（上の例では「借金取り」）
- 特定人物（or グループ）のセリフの1人称として使う。上の例では「借金取り」（よって、先行詞なしでも「私」が誰かがすぐわかる）

使用データは発表者の収集した談話 61 編（うち物語にのみ使用と判明、22 編）と [NPO 法人沖縄伝承話資料センター](#) の収集資料 2 編。前者のうち、物語の全体文脈を確認しながらデータを確認できるサンプル 4 談話（REFL で検索するなどしてください）と、それらの韻律を確認するための文ごとの音声ファイルはスライド資料を [ダウンロードしたフォルダ](#) からダウンロードできます。

## 特徴 1 必ず引用節内

- =ti 「～って」による引用節にのみ見られる
- 述語：Speech V (generic vs. specific), Dummy V, no V の 3 パターン
- 大きく括れば全て Speech V とみなせそう

---

Speech V (generic)	aidu agaitandigama <b>naraa</b> sakiudu sagarii numiiffiba urjuu nausiga ahudiga ti assibadu	すると「んー、 <b>俺は</b> 酒をツケで飲んでるものだから、それどうしたらいい？」 <b>”</b> というので
Speech V (specific)	kanu pžtunu naraahadakaa <b>naraa</b> mmja kurusii sinasii fitaarru naunmaidu nariutifii, ageetii kansjaasii, kanu pžtunkai	「あの人があなたが教えてくれなかつたら <b>俺は</b> もう2人を殺して、死なせて、大変なことになつていただろう」と、「ああ」と、感謝してね、あの人。
Dummy V	mmja <b>naraa</b> kurusatti ffibati naugaraca.	「 <b>俺は</b> 殺してやろうと思つてきたんだぞ」と、あれした (=言った) んだとさ
No V	naugaraca, agaaii vvaga ukagidu <b>naraa</b> mmja naunmai narada kai ninginnasii uiba, arigatoo, zinnumai mmja turadjaanti ukkaumai turattarca.	あれだつて。「ああ、あなたのおかげで <b>俺は</b> どうもならず、このように人間のままでいられるわけだから、ありがとう！お金はもう取らないよ」と (言って)、借金を取らなかつたとさ。

## 特徴 2 典型的には主語位置

	Nom	Poss	Acc	Dat	Other
Speech V	✓	✓	✓	✓	?
Others	✓	?	?	?	?

Figure 1: nara の格：チェックは例あり、? は例なし

Nom	- naraa kuzicijaiba mmja turimicjaa njaanniba naaga faaii sinabam naubam <b>naaga...naraa</b> naugara taſimadissibati unu uzunusuuga onegaisitarca.	「私はハンセン病ですから、使い道がないですか ら、私が（サメに）食われて死のうがどうな ろうが、 <b>私が、私は</b> （サメを）とっちめてやり ますよ」とそのウズヌシュウがお願ひしたん だって。」
Poss	naraa umanu nuusiutakinu nusindu turaii nuusiutakin..nu kamisaman narii uman uiba mmja <b>naraa</b> kutuba mmja sjuwasida uri tii assii mmja jumekara samitarca	「私はそこのヌーシ御嶽の主にとらわれて、 ヌーシ御嶽の神様になっていますから、 <b>私のこ</b> とは心配しないでいてください」と言って、 (母親は) 夢から覚めたんだって。」
Acc	- naraa katabataa faaii katabataa jaanu panan nuusiidu <b>naraa</b> ba pusii nciarti asitarjaa	「私はからだ半分は家の屋根に乗せて <b>私を干し</b> ておいでいる」と(ユナイトマガ)言うので
Dat	- naraa mmja kurusaidu katabataa faaii katabataa jaanu panan nuusiraiuiba <b>naranna</b> kuurainti ažtarca	「私は殺されて、からだ半分は食べられ、もう 半分は家の屋根にのせられているので、 <b>私には</b> (龍宮の神の元に) 行かれません」と言ったん だそうだ。」

### 特徴 3 先行詞の非明示

引用節の外にある照応先は明示されない。唯一の例外は以下：

- (4) naraa kuzicijaiba mmja turimicja njaanniba naaga faaii sinabam  
私は 病なので もう 使い道が ないので 私が 食われて 死のうが  
naubam naraa naugara tafimadissibati unu uzunusjuuga  
どうなろうが 私は あの やっつけるよと その ウズヌシュウが  
onegaisitarca.  
お願いしたとさ

「私は<sub>i</sub> 病気ですから、使い道がないですから、私が<sub>i</sub> (サメに) 食われ  
て死のうがどうなろうが、私は<sub>i</sub> (サメを) とっちめてやりますよ」  
と そのウズヌシュウが<sub>i</sub> お願いしたんだとさ。

## 特徴 4 特定人物のセリフに限定

物語談話の中でも、必ず特定の1人の登場人物の発話にしか用いられないようである。つまり、*nara* が複数の人物の発話で使われるケースは以下の例を除いて見つからなかった。

Table 1: 「薄情な父親うずらと愛情深い母親うずら」の話

人物	「私」の代名詞	セリフ	和訳
母うずら	REFL.PL	baga ffagamamminu sidibadu ujaku suruui <b>naadu</b> naugara ahuditi asitarjaa asitarjaa bikivttsaa maipartartsa. tubii partartsa.	「私の子達が生まれたから、親子揃って、 <b>私たち(REFL.PL)</b> 、なんというか、あれしよう（暮らそう）」と（ <b>母親うずらが</b> ）言ったら、父親うずらは飛び去ってしまったんだとさ。
ヒナ	1PL	munuīnaju uigataankai munuīnatii ujavttsa asiba hai <b>bantjaa</b> kumandu urduui uja juravtar aitartsa.	（生まれたヒナに向かって）「喋るなよ、あんなやつには呼びかけるな」と母親うずらが言うと、「 <b>私たち(1PL)</b> はここにいますよ、お父さん」と（ <b>ヒナたちが</b> ）呼んだんだそうだ。
父うずら	REFL	aidu agaitandigama <b>naraa</b> sakiudu sagarii numiiffiba urjuu nausiga ahudigati assibadu	すると「おお！ <b>俺(REFL)</b> は酒をツケで飲んできたから、それをどうしたらいい？」と（ <b>父親うずらが</b> ）言うので、
ヒナ	1PL	unu vccagama mmja <b>bantjaa</b> aanu puunu juurja aanu puuja ffiia mata muzi kar juurjanna muzinu puugama ffiia ccii urjaav viiji sakidaiuba paradissibati aitarjaa	ヒナたちは「 <b>私たち(1PL)</b> は粟の穂の季節は粟の穂をとって、麦を刈る時は麦の穂をとってきて売って、酒代を払いますから」と言うと

## 特徴 4 特定人物のセリフに限定

以下は主人公バカアザにのみ nara が使われる典型的な物語文。ただし「私の家」「私の妻」などに当たる、「うちの」系表現は banti (1PL.EXCL) で固定され、再帰代名詞 (SG nara/PL naadu) にならない。

Table 2: 「アガルパティロマバカアザ」の話: NPO 法人沖縄伝承話資料センターの録音データの書き起こし結果 (<https://okimu.jp/museum/introduction/>)

人物	「私」の代名詞	セリフ	和訳
バカアザ	REFL	mizza rrii bucidan sikiutui kunu mizinu juguritiija <b>narauba</b> sinii njaan ti umui...ti tuzikii	(戦に行く朝、妻に) 「水を入れて仏壇に供えて、この水が汚れたら <b>俺は死んだと思え</b> 」とことづけて
バカアザ	1PL	<b>bantiga</b> midumma aidu asiuiba nauga ahudigagara ti sabakibadu	「 <b>うちの</b> 妻はそうなってるから（首を吊って死 んでいるから）、どうしたらいいでですか？」と 相談すると
隣の おばあさん	1SG	<b>baga</b> naraasaba baga naraasi njaan. vvaga ici mcinna udurukisiba iciban miipazimija pztunu až kutuu...ti tuzikiriba	「 <b>私が</b> 教えるから、 <b>私が</b> 教える通り、お前が行 く道すがら、驚くかもしれないが一番先に会う 人のことを（聞きなさい）」とことづけたので
道で会つ た病人	1SG	<b>baga</b> duuju nammadakaa ssahadjaan ti ažžiuiba	「 <b>私の</b> 体を舐めなければ教えてやらない」と言 うもんだから

ban (1SG) を使った引用法との違い

## ban を使った引用法と何か違いがあるのか？

再帰代名詞を使った引用（物語の1人称用法）と、普通の1人称代名詞を使った引用とでは、以下の構造的な相違があることがわかった。

- (5) a. **naragadu unnuba jagumarasii kuudi ti ažtarca.**  
REFL がぞ 鬼をば やっつけて こようと言ったとさ  
「**俺が鬼を退治してこよう**」 と言ったとさ。【物語の1人称用法】
- b. \***nara**gadu unnuba jagumarasii kuudi. aidu ažtarca.  
REFL がぞ 鬼をば やっつけて こよう そう 言ったとさ  
「**俺が鬼を退治してこよう。**」（そう言ったとさ）【直接引用】
- (6) **ba**gadu unnuba jagumarasii kuudi. aidu ažtarca.  
1SG がぞ 鬼をば やっつけて こよう （そう 言ったとさ）  
「**俺が鬼を退治してこよう。**」（そう言ったとさ）【直接引用】

日本語の「**自分が**鬼を退治してきます！」（後輩調）との大きな違いはここにある。nara の場合は「nara が鬼を退治してくる」 と言った、のような引用節化が必須。つまり、間接話法的側面 (Aikhenvald 2008) がある。

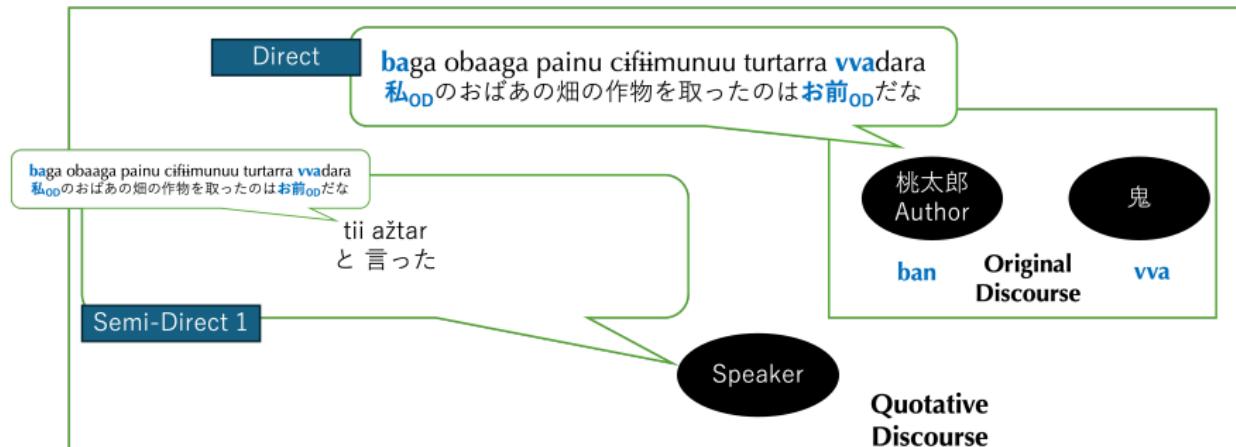
# 物語の1人称の話法的特徴

		発話構造 調整	人称 シフト	発話行為 シフト
Direct Speech (物語 不自然)	「1SGのおばあさんの畑を荒らしたのはお前だな！」 桃太郎はそう言ったとさ。	-	-	-
Semi-Direct 1 (物語OK)	「1SGのおばあさんの畑を荒らしたのはお前だな！」 と言ったとさ	+	-	-
Semi-Direct 2 (物語OK)	「REFL <sub>i</sub> のおばあさんの畑を荒らしたのはお前だな！」 と(桃太郎は)言ったとさ	+	+	-
Indirect Speech (物語 不自然)	桃太郎のおばあさんの畑を荒らしたのが鬼であることを (桃太郎は)話した	+	+	+



# 物語の1人称の話法的特徴

談話資料によると、伊良部の物語は Semi-Direct 1/2 でセリフを引用して語るパターンのみ。Direct で終えたり（例：「お前だな！」そう言ったとさ）、セリフなしの Indirect で話すことは全くない。



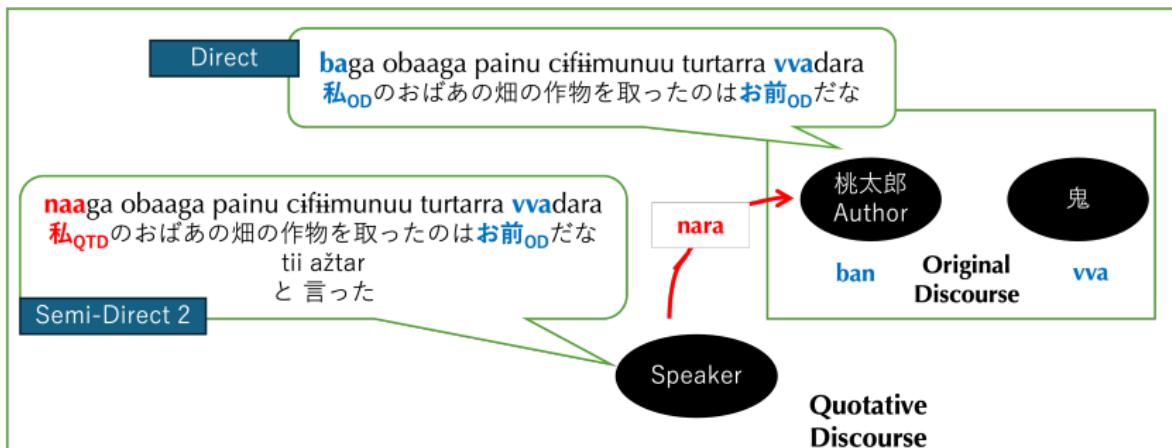
momotaroga obaaga painu cifiimunuu turtarra un ataruu ažrar  
桃太郎<sub>ND</sub>のおばあの畑の作物を取ったのは鬼<sub>ND</sub>であることを（桃太郎は）話した

Indirect

Narrative Discourse

## 物語の1人称の話法的特徴

談話資料によると、伊良部の物語は Semi-Direct 1/2 でセリフを引用して語るパターンのみ。Direct で終えたり（例：「お前だな！」そう言ったとさ）、セリフなしの Indirect で話すことは全くない。



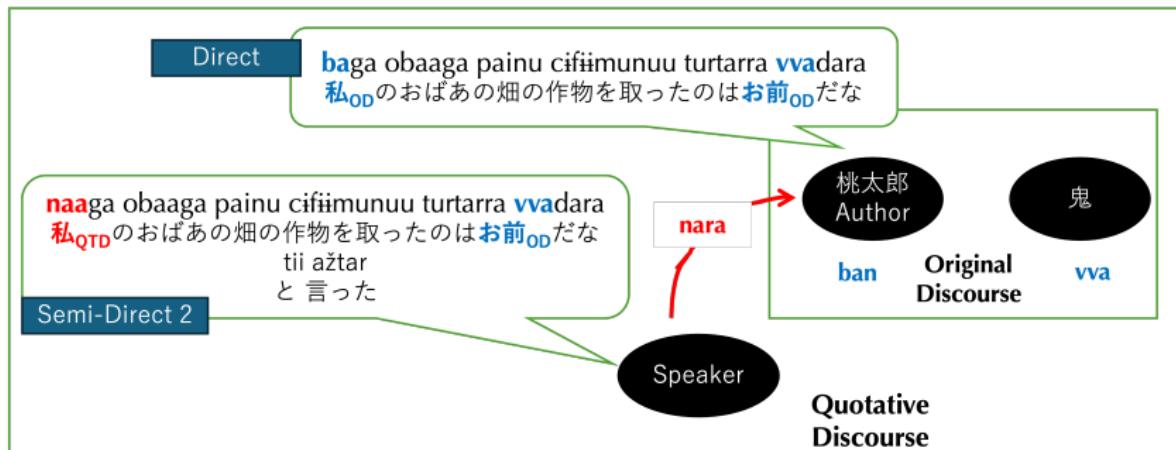
**momotaroga** obaaga painu cifiimunuu turtarra **un** atarruu ažrar  
桃太郎<sub>ND</sub>のおばあの畠の作物を取ったのは鬼<sub>ND</sub>であることを（桃太郎は）話した

## Indirect

## Narrative Discourse

# 物語の1人称の話法的特徴

SD1/2 の使い分けは、実際の談話資料では特定登場人物に SD2、それ以外に SD1(中心人物に SD2 vs. それ以外 SD1)



## ここまでまとめ

1. 必ず引用節内に出てくる
2. 典型的に nara 自体が主語位置に生起
3. 典型的に先行詞がない
4. 特定人物のセリフの 1 人称として使う。よって、先行詞なしでも 「私」  
が誰かかがすぐわかる
5. 話法という観点を導入することで、より間接話法よりの nara (REFL) による話法 (Semi-Direct Speech 2) と、より直接話法よりの ban (1SG) による話法 (Semi-Direct Speech 1) として整理できる。

特徴4から、引用節（セリフ）が物語のどの人物のものかがわかり、それによって nara 「私」の指示対象もわかる。

全てのセリフで 1 人称代名詞が使われるよりも、nara の使用によって主要人物 vs. 脇役の構造化が生じ、reference-tracking が容易になっている側面がある。

# 一般言語学的観点から見た 物語の 1 人称用法

# 他言語に見る類例

## アイヌ語

- 「引用の1人称」(田村 1972) : 1PL, INCL, INDEF の役割を兼ねる**不定人称代名詞**が、伝承テキストのほとんどのジャンルで使われる (Bugaeva 2008, 39)。
- 「引用の1人称」という特殊な人称ではなく、不定代名詞の用法が持つ発話者照応性(ロゴフォリシティ)で説明できる (Bugaeva 2008: 40-41)。

“...cis=**an**                cis=**an**                kor      patek    **an=an**                ayné,...  
cry=INDEF.S cry=INDEF.S and only be.SG=INDEF.S finally  
**ray=an**                ma Ø=*isam*                *ruwe*                *ne*"     **sekor,**  
die=INDEF.S and 3.S=not.exist INFR.EV COP QUOT  
**sine**    *menoko* Ø=*itak*  
one woman 3.S=tell  
“...I [lit. self] cried and cried. I [self] was always crying. Finally,. .I [self]  
died”. **One woman told.** (B 200; U), Chitose, SH.

Figure 2: アイヌ語の「引用の1人称」(Bugaeva 2008, 39)

# ロゴフォリシティ

## ロゴフォリシティとは

- 代名詞の照応が、「言う」「思う」「知る」などの発話主体・認識主体の視点に引っ張られること。もともとはの西アフリカの言語の分析用語(Hagège 1974)。

(7) Oumar [Anta wo-ñ waa be] gi.  
Oumar Anta 3sg-OBJ seen AUX said  
Oumar<sub>i</sub> said that Anta<sub>j</sub> had seen him<sub>k</sub>

(8) Oumar [Anta **inyeme**-ñ waa be] gi.  
Oumar Anta LOG-OBJ seen AUX said  
Oumar<sub>i</sub> said that Anta<sub>j</sub> had seen **him<sub>i</sub>** (Donno So)

## 再帰代名詞とロゴフォリシティ

- Exempt reflexives: 従来よく知られた主語照応性 (locality) で説明できないようなケース (Pollard and Sag 1992, Charnavel 2019)
- 以下で、himself と照応するのは発話主体 (John)
  - John<sub>i</sub> said to Mary that there was a picture of **himself<sub>i</sub>** in the post office.
  - \*Mary said about/of John<sub>i</sub> that there was a picture of **himself<sub>i</sub>** in the post office.

(Kuno 1987, 126)

## 大神方言 (Pellard 2009): Reflexive vs. Logophoric

- tuu は reflexive 用法のみ (下地注：主語と照応する非主語位置の REFL)
- naa は 3 人称の reflexive/**logophoric** 用法がある
- kanu pstaa **naata** ikateenti auriuu  
「あの人たちは<sub>i</sub>自分たちは<sub>i</sub>いかないと言っている」

## 伊良部島方言 (Shimoji 2008, 232)

- (9) nara=a ikadi=ca.  
1SG=TOP will.go=HS  
'(X<sub>i</sub> says) "I<sub>i</sub>'ll go.'

- (10) "X says" の X が REFL をコントロールする (Shimoji 2008: 232)

# 再帰代名詞 nara のロゴフォリック的側面

## 伊良部島方言の再帰代名詞 nara とロゴフォリシティ

- ロゴフォリック代名詞は述語によって照応の強さに違い (Culy 1994)  
Logophoric Hierarchy:  
Speech > Thought > Non-factive perception (hearsay) > Knowledge

例文（こちらが伊良部の文で提示）	V type	naraのGR	語順	S照応 なら	L照応 なら	実際
mijoo zjunzigadu naaga ffau zzartii siitar ミヨはジュンジが自分の子を叱ったと知った	Knowledge	Poss	M > J > N	J	M	J, M
mijoo zjunzigadu naaga ffau zzartii ciitar ミヨはジュンジが自分の子を叱ったと聞いた	Non-factive	Poss	M > J > N	J	M	J, M
mijoo zjunzigadu naaga ffau zzartii umuvtar ミヨはジュンジが自分の子を叱ったと思った	Thought	Poss	M > J > N	J	M	J, M
mijoo zjunzigadu naaga ffau zzartii ažtar ミヨはジュンジが自分の子を叱ったと言った	Speech	Poss	M > J > N	J	M	J, M

S 照応・L 照応両方に反応するように見える。L 照応は動詞のタイプによらず同程度有効。

## 再帰代名詞 **nara** のロゴフォリック的側面

L 照応が、発話主体・認識主体の視点に引っ張られる現象であるなら、「視点の取りやすさ」(Kuno 1978の「カメラアングル」)に影響を受けるはず。

- S > non-S
- Passive S > Active S (久野 1978: 130-131)
- L 照応の階層 (予測) : Passive S > Active S > non-S の順番

例文 (こちらが伊良部の文で提示)	V type	naraの GR	ヴォイス	S照応 なら	L照応 なら	実際
naaga ffaudu <b>zjunziga</b> zztartii <b>miju</b> cikasaitar 自分の子をジュンジが叱ったとミヨは聞かされた	Non-factive	Poss	Passive S	J	M	(J), M
naaga ffaudu <b>zjunziga</b> zztartii <b>miju</b> cifitar 自分の子をジュンジが叱ったとミヨは聞いた	Non-factive	Poss	Active S	J	M	J, M
naaga ffaudu <b>zjunziga</b> zztartii <b>mijun</b> cikasaitar 自分の子をジュンジが叱ったとミヨに聞かされた	Non-factive	Poss	Passive OBL	J	M	J, (M)

L 照応に一番反応する (つまり J に対して M 優先解釈になる) のは  
Passive S > Active S > Passive OBL (non-S)

## L 照応の再帰構文と物語の1人称用法の連續性

普通のL照応の文と物語の1人称用法は連続性がある。物語の1人称用法ではAuthorが明示されないと言う重要な特徴があるが、これも程度問題。

- (11) mijoo zjunzigadu **naaga** ffau žžtartii ažtar  
ミヨは ジュンジが REFL の 子を 叱ったと 言った
- (12) a. 訳し方1 ミヨは<sub>i</sub> ジュンジが自分の<sub>i</sub> 子を 叱ったと 言った  
b. 訳し方2 ミヨは「ジュンジが**私の**子を 叱った」と 言った
- (13) **naraa** kuzicijaiba mmja turimicjaa njaanniba **naaga** faaii sinabam  
**私は** 病なので もう 使い道が ないので **私が** 食われて 死のうが  
naubam **naraa** naugara tafimadissibati unu uzunusjuuga  
どうなろうが **私は** あの やっつけるよと その ウズヌシュウが  
onegaisitarca.  
お願いしたとさ

(11)のような普通のL照応構文が基盤となって、物語ジャンルに多用され、慣習化されていった結果が「物語の1人称用法」だと結論づけられる。

おわりに

## 物語の1人称用法のメカニズム

(14) naraa katabataa faaii katabataa jaanu panan nuusiidu narauba  
私は 体半分は 食べられ 体半分は 家の 屋根に 乗せて 私を  
pusii nciarti asitarjaa  
干して 置いてあると 言ったら

「私は<sub>i</sub>体半分は食べられ、体半分は（人間たちが）家の屋根に乗せて私を<sub>i</sub>干しておいでいる」と（ユナイタマ<sub>i</sub>が）言うと、

1. 「nara は・・」と (X が言う) : Speech V/能動環境
2. 「nara<sub>X</sub> は・・」と (X が言う) : L 照応
3. X は物語によって決まっている特定人物 : ユナイタマ
4. 解釈「私は・・」と (ユナイタマのセリフ)

このように、物語の1人称用法は、再帰代名詞が持つL照応を基盤としていると言えるが、Step 3は伊良部島方言における「語り」の慣習的側面。つまり、なぜこのようになるのかは、現時点では言語学的に説明不能。しかし、結果的に、reference-tracking の機能が備わって便利。

## 新たに見えてきた研究トピック：宮古語におけるロゴフォリシティ関連現象

宮古語研究の大半は再帰代名詞 *nara* が「同一節内の主語」に照応する場合を記述するが、そうではない場合に着目した研究がいくつかある。

大神方言 (Pellard 2009): Reflexive vs. Logophoric

- *tuu* は reflexive 用法のみ (下地注：主語と照応する非主語位置の REFL)
- *naa* は 3 人称の reflexive/**logophoric** 用法がある
- *kanu pstaa naata ikateenti auriuu*  
「の人たちは<sub>i</sub> **自分たちは<sub>i</sub>**いかないと言っている」

池間方言 (林 2013, 89)

- *nara* は主語だけでなく**話者自身**を指すことができる (p. 89, 赤字は下地)
- *junussa naraga sabau hmiui* 「ユヌスは<sub>i</sub> {**自分の<sub>i</sub>/私の**}草履を履いてい  
る」 (王 2021, 11-12 の類例も参照)

大神のケースは、Pellard が指摘するように L 照応として問題なく解釈できる現象で、ひょっとするとこの言語にも物語の 1 人称用法が存在する可能性を示唆する (が、報告はなく、談話資料にもそれらしい例はない)。

# 引用談話の「発話者」の区別と照応先の拡大？

## 「発話者」の二種 (Aikhenvald 2008)

- 文の発話者 (Speaker, Aikhenvald 2008 の Current Speaker)
- 引用文の発話者 (Author, Aikhenvald 2008 の Original Speaker)

池間の *nara* のような例は伊良部にはないが、宮古語の他の方言にも類例の報告がある (王 2021: 11-12)。通常のロゴフォリック照応 (Author と照応) に比べ照応先が広くなり 文を発話する発話者, Speaker (つまり話者) にまで照応していると見ることはできるか？再帰代名詞は、S 照応 (文中の主語に照応)、L 照応 (Author に照応)、Spk 照応 (Speaker に照応) という 3 つの照応先があり、方言によって S, L のみだったり、S, L, Spk が可能だったりするのかもしれない。(16) のような例をいろいろな方言で比べるなど、調査が必要。

(15) 池間 junussa naraga sabau hmiui } Spk

「ユヌスは<sub>i</sub>{自分の<sub>i</sub>/私の<sub>j</sub>} 草履を履いている」 } Spk<sub>j</sub>

(16) 作例 (A, S, Spk の照応が可能か調べる意義がある)

zjunzia<sub>A</sub> junusigadu<sub>S</sub> naraga sabau fimiur tii asiur } Spk

「ジュンジは<sub>A</sub> ユヌスが<sub>S</sub>{自分の<sub>A</sub>/自分の<sub>S</sub>/私の<sub>Spk</sub>} 草履を履いてい  
ると言っている」 } Spk<sub>k</sub>

# 引用文献

- Aikhena, Alexandra Y. (2008) "Semi-direct speech: Manambu and beyond," *Language Sciences*, Vol. 30, No. 4, pp. 383–422, July, DOI: 10.1016/j.langsci.2007.07.009.
- Bugaeva, Anna (2008) "Reported Discourse and Logophoricity in Southern Hokkaido Dialects of Ainu," *Gengo Kenkyu*, No. 133, pp. 31–75, URL: [https://ls-japan.org/modules/documents/LSJpapers/journals/133\\_bugaeva.pdf](https://ls-japan.org/modules/documents/LSJpapers/journals/133_bugaeva.pdf).
- Charnavel, Isabelle (2019) *Locality and Logophoricity: A Theory of Exempt Anaphora*, Oxford Studies in Comparative Syntax, New York / Oxford: Oxford University Press, DOI: 10.1093/oso/9780190902100.001.0001.
- Culy, Christopher (1994) "Aspects of logophoric marking," *Linguistics*, Vol. 32, No. 6, pp. 1055–1094, DOI: 10.1515/ling.1994.32.6.1055.
- Hagège, Claude (1974) "Les pronoms logophoriques," *Bulletin de la Société de Linguistique de Paris*, Vol. 69, No. 1, pp. 287–310.
- 林由華 (2013) 「南琉球宮古語池間方言の文法」, 博士論文, 京都大学.
- Kuno, Susumu (1978) 『談話の文法』, 大修館書店.
- (1987) *Functional Syntax: Anaphora, Discourse, and Empathy*, Chicago / London: University of Chicago Press, pp.viii + 320.
- 王丹凝 (2021) 「南琉球宮古語新城方言における再帰代名詞」, 『日本語の研究』, 第 17 卷, 第 2 号, 1–18 頁.
- Pellard, Thomas (2009) "Ogami: Éléments de description d'un parler du sud des Ryukyus," Ph.D. dissertation, EÉcole des Hautes Études en Sciences Sociales.
- Pollard, Carl and Ivan A. Sag (1992) "Anaphors in English and the Scope of Binding Theory," *Linguistic Inquiry*, Vol. 23, No. 2, pp. 261–303.
- Shimoji, Michinori (2008) "A Grammar of Irabu, a Southern Ryukyuan Language," Ph.D. dissertation, Australian National University.
- 田村すず子 (1972) 「アイヌ語沙流方言の人称の種類」, 『言語研究』, 第 61 卷, 1–14 頁.